

オーシャン・メタル —資源戦争の新次元

資源・環境ジャーナリスト 谷口正次



- *陸上資源から海底資源へ
- *含有レアメタル類に照準
- *メタンガス、リン鉱石も豊富
- *日本のEEZは世界6位の広さ
- *トップランナーは中国向け
- *事業化で後れをとる日本
- *「三戦」で版図拡大する中国
- *政府目標で力を入れる韓国
- *日本は由々しき状態にある
- *20世紀のパラダイムでは絶対ダメ

浅野 それでは開会いたします。（拍手）

谷口正次さんることはもうご紹介の必要はないと思いませんけれども、一昨年は「資源無教養」というタイトルで教養のない日本の資源戦略というようなお話をした。その後いろいろな展開がありまして、アメリカではシェールガスブームに沸いていますし、資源がますます注目されています。本日は深海底資源のお話で、状況が激変しつつありますから、タイミングのいい講演になろうかと思います。

こういうお話をできる講師は実は日本にあまりいなくなつてきて、谷口さんは、東洋経済からこの種のご本を出していただくというときにたいへん助けていただいています。次の本も今日の演題の『オーシャン・メタル』という書

名になりそつだということです。それでは谷口さんよろしくお願ひします。（拍手）

谷口 ご紹介いただきました谷口でございます。これまでこの経済俱楽部で2008年と2010年と2回にわたり、陸上資源についてのお話をさせていただきました。今日は陸上でなく深海底資源ということでお話をしたいと思います。

このことについては、11月末に東洋経済新報社から本を出すことになつております。ですから、今日はその概要ということです。今日話を聞いたからもういいなどと言わず（笑）でさえお買い上げいただくと東洋経済新報社のためにも結構かと思います。私の印税はたいしたことはないのですから、よろしくお願ひ申し上